

盛岡市史



資料編
上 卷

現代



盛岡市長 内館 茂

秀峰 岩手山の裾野に広がり、北上川・中津川・雫石川などの清流が市内を悠々と流れる「杜と水の都」盛岡市は、盛岡藩の城下町として発展してきた歴史と伝統のある詩情豊かなまちです。

1889（明治22）年4月1日、他の30市とともに全国初の市制を施行し、2008（平成20）年4月には中核市へと移行するなど、北東北をリードし、要となる拠点都市として発展を続けてきました。

このような歴史を後世に残すため、『盛岡市史』は1950（昭和25）年から1981年までに全21巻を刊行しています。また、都南村では1974年に『都南村誌』を、玉山村では1979年に『村誌たまやま』を刊行しました。これらの発刊から多くの歳月が流れ、市民生活はもとより、本市を取り巻く社会情勢は、合併などで大きく変化・発展するとともに、人々の生活様式も著しく変化しました。2019（令和元）年「市制施行130周年」を迎えたことを契機に、新たにそれぞれの歴史を振り返るため、2020年4月から市史編さんに取り組んでいます。

今回編さんする『盛岡市史 現代』は「通史編」「資料編」「写真集」の3編を刊行することといたしました。

本書「資料編」は、2024年度末に刊行予定の「通史編」執筆の素材となる各種資料約1,000点を掲載しており、概ね昭和30年代から平成の終わりまでの約60年間の歴史と発展の記録を残したものです。

本書が、改めて盛岡への関心を高めること、また、過去を振り返り未来へつなぐ役割を果たすため、大いに活用されることを願っております。

刊行にあたり、貴重な資料を御提供いただきました多くの皆様に心から御礼申し上げますとともに、御尽力いただきました執筆者をはじめ御協力賜りました関係各位に深く感謝申し上げ、刊行にあたってのことばといたします。



盛岡市史編さん委員会委員長 熊谷 常正

これまで盛岡市に関わる自治体史として、『盛岡市史』・『都南村誌』・『村誌たまやま』があります。特に『盛岡市史』は、昭和19年に郷土史の泰斗・太田孝太郎氏が中心となって取り組みが始まり、昭和25年から約30年をかけ21冊が刊行されました。その後、通史編も作られましたが、いずれも半世紀以上前の昭和30年代で記述は終わっています。

本書は、それ以降の時代《現代》を対象としました。《現代》はまさに私たちが直接体験し、経済・社会・環境だけでなく価値観も大きく変化した時代です。膨大な情報があふれ多様化した《現代》の叙述には、かつての市史とは違う方法や見方が必要です。

市史編さん委員会では、本事業の基本構想に市史の主体は市民であり、その視点をもとに親しみやすく、幅広い分野で活用でき、学術的にも評価できる市史の作成を掲げました。そして専門委員会を組織して8つの部会を設け、のべ35人の編集部会員を委嘱しました。部会ではまちづくりや市民活動などについて検討を重ね、幅広い視点から記述の客観性・妥当性を高め、“盛岡らしさ”の表現に努めました。同時に、資料編に根拠（エビデンス）としてのデータを示し、写真集も作成しています。

歴史の叙述は、出来事や事象の羅列ではありません。対象となる時代のすべての出来事を取りあげるのは不可能なことから、出来事を吟味し、意義を評価して選択することになります。解釈や選択基準が問われるのです。この姿勢は時代の意識を反映するので、歴史叙述は常に移り変わり、新しい時代には新しい歴史が生み出されていくことになります。

また、本書によって盛岡市の歴史が完結するわけではありません。むしろ伝統を踏まえ、“盛岡らしさ”を確認し、今後のビジョンを構築するためにも、新しい歴史が求められると思います。そのためにも本書が、市民に活用され、機運醸成の契機になることを祈っています。

最後に、刊行に際してご支援・ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

資料3-57	東北に新幹線時代開く 盛岡ー大宮間開業 <u>1982年6月23日</u>
資料3-58	盛岡ユースホステル 1973、1974年
資料3-59	1980年代の盛岡市内宿泊施設

Ⅱ 観光資源 ————— 253

資料3-60	市内中心部 1981年
資料3-61	歴史的建築 2001年
資料3-62	盛岡城跡公園ガイドマップ 2019年
資料3-63	つなぎ温泉宿泊施設
資料3-64	歩いて楽しむまち盛岡 1999、2018年
資料3-65	手づくり村オープン <u>1986年5月1日</u>
資料3-66	玉山村の観光 1979年
資料3-67	「ユートランド姫神」がオープン <u>1998年4月1日</u>
資料3-68	岩山展望台と愛宕山展望台 1962年
資料3-69	都南村の観光協会 1974年
資料3-70	文化施設・観光施設の利用 1987年
資料3-71	観光マップの店舗チラシ 1981年
資料3-72	盛岡三大麺
資料3-73	1950年代の市内の旅館・飲食店数 1959年
資料3-74	盛岡市内定期観光バス沿革 1976～2014年
資料3-75	盛岡都心循環バスでんでんむし路線図 1999年

Ⅲ 誘致・誘客プロモーション ————— 263

資料3-76	山車2台ビクトリア市練り歩く <u>1986年6月21日</u>
資料3-77	盛岡さんさ踊りのあゆみ 1971～2017年
資料3-78	年間の主な行事 1978、2017年
資料3-79	各施設ホールの収容人数
資料3-80	コンベンション受け入れ変遷 1995～2021年
資料3-81	教育旅行入込数（県内教育旅行生含） 1993～2019年
資料3-82	盛岡小さな博物館
資料3-83	盛岡ふるさとガイドの沿革 2000～2022年

Ⅳ 変遷する「観光」の定義 ————— 267

資料3-84	観光プロモーションにも変化(1) 2019年
資料3-85	観光プロモーションにも変化(2) 2018年

第3節 伝統から新産業への工業の変遷 — 268

I 工業の推移と施策 ————— 269

資料3-86	盛岡市勢振興計画書 工業の指標 1956年
資料3-87	事業所数、従業者数および製造品出荷額等の推移 1955～2018年

資料3-88	産業大分類別事業所数・従業者数の推移 1975～1991年
--------	-------------------------------

資料3-89	盛岡市の誘致企業の立地数年間推移 1945～2020年
--------	-----------------------------

資料3-90	既存工業団地一覧（2015年度） 2017年
資料3-91	ものづくり企業集積状況 企業一覧
資料3-92	盛岡市産業支援センター <u>2002年11月</u>
資料3-93	盛岡市産学官連携研究センター <u>2007年8月</u>

資料3-94	盛岡市新事業創出支援センター <u>2008年5月1日</u>
--------	---------------------------------

資料3-95	盛岡市IT産業振興戦略 概要版 2021年
資料3-96	盛岡市ヘルステック産業振興戦略 概要版 2021年

資料3-97	盛岡市新産業等用地整備基本計画と各種計画の関係 2017年
--------	-------------------------------

資料3-98	整備候補地区の概要 2017年
資料3-99	誘致企業撤退の荒波 2002年

資料3-100	アルプス盛岡 今日完全撤退 <u>2002年12月27日</u>
---------	----------------------------------

Ⅱ 各業種の動向 ————— 276

資料3-101	既存・伝統産業・新規産業業種 主な企業一覧
---------	-----------------------

第4節 金融、雇用・勤労者福祉の状況 — 277

I 各金融機関の状況 ————— 278

資料3-102	各種金融機関 概要
資料3-103	岩手の銀行変遷図 1877～1975年

Ⅱ 雇用情勢と求人対策 ————— 280

資料3-104	県外希望は就職天国 1960年
資料3-105	集団就職列車 24日に最後の旅立ち 1975年
資料3-106	盛岡市雇用推進計画 5,000人の雇用を創出します 2004年
資料3-107	新規大学等卒業者の就職内定状況 2010～2022年

Ⅲ 勤労者福祉の歴史 ————— 282

資料3-108	主な勤労福祉施設の概要
資料3-109	市勤労福祉施設の利用状況 1970～2018年

第5節 多様な農業の振興 ————— 284

I 総論 ————— 285

資料3-110	盛岡市の農家戸数（農家数・農業経営体数）および耕地面積の推移 1970～2020年
---------	---

Ⅱ 農業基本法と農業構造の変動 ————— 286

資料3-111	農業事業変遷図 1945～2020年
資料3-112	鹿妻穴堰の沿革 2020年
資料3-113	図でみる村勢10年ー農業構造改善事業ー 1965年

資料3-114	雑穀畑を積極的に改良 1964年
資料3-115	リンゴ樹園地造成 1965年
資料3-116	圃場整備事業 1979年
資料3-117	農業団体の概要 1961年
資料3-118	JA盛岡市 部会構成
資料3-119	JA盛岡市業務管理機構図 1997年
資料3-120	都南農業協同組合組織図 1999年
資料3-121	JA玉山村農業生産組織化推進体制 1978年
資料3-122	農地保有合理化事業の取組 1999年
資料3-123	都南農協農業機械銀行の取組 1999年
資料3-124	JAいわて中央組織図 2009年
資料3-125	JAいわて中央の概要 2009年
資料3-126	少ない人数で多収穫 1962年
資料3-127	観武ヶ原をモデル農村に 1963年

Ⅲ 食料・農業・農村基本計画による新たな展開 — 294

資料3-128	盛岡市米政策の転換 2004年
資料3-129	盛岡市農家組合数とビジョン数 2004年
資料3-130	盛岡市農業政策の推進方向 2004年
資料3-131	サンフレッシュ都南の取組 1999年
資料3-132	盛岡市の農産物直売所の事業数、総販売額及び年間販売金額事業別の割合（2015～16年） 2018年
資料3-133	盛岡市産地直売所一覧
資料3-134	もりおかの食と農バリューアップ推進戦略（概要版） 2018年
資料3-135	盛岡の美味しいもんアンバサダー認定制度 2020年

第6節 市民に親しまれる林業・内水面漁業の振興 ————— 298

I 山林利用の変化と林業・内水面漁業 ————— 299

資料3-136	発駅別木材移出量（1961年）
資料3-137	林野面積の推移 1965～2020年
資料3-138	拡大造林・再造林面積 1961～1999年
資料3-139	林道の開設、改良 1964年
資料3-140	林道開設状況（1976年度末） 1978年
資料3-141	林道整備状況（2005年度） 2009年
資料3-142	1970年度から始まる林業構造改善事業 1968年
資料3-143	盛岡市森林組合事業取扱実績の推移 1961～1999年
資料3-144	民有林保安林面積 1975～2020年

資料3-145	所有別森林面積（1961年）
資料3-146	現況森林面積の推移（2000年～2020年）
資料3-147	民有林の林令別森林資源構成 1961年
資料3-148	民有林齢級別森林面積 1975～2020年
資料3-149	木材等林産物の推移 1962～1999年
資料3-150	林業労働者の推移 1961～1999年
資料3-151	スギ1㎡で雇用できる伐木作業者数の推移 1961～1998年
資料3-152	林業就業者数と高齢化の推移 1960～1995年
資料3-153	森林の機能区分別面積（2005年度） 2009年
資料3-154	みんなで外山森林公園へ 1970年
資料3-155	増殖実績（2002年・1995年）・計画（1988年）の推移 1988～2002年
資料3-156	岩洞湖漁業協同組合増殖実績（1995年度）
資料3-157	河川魚族育成対策事業費補助金交付要領

年 表 ————— 307

下 巻

第4章	健康で安心して暮らせるまちづくり
第5章	地域と歩む教育
第6章	市民のくらしと文化・スポーツ
第7章	市民活動のあゆみと、その先へ 協力者・関係者一覧
編集後記・資料編の編集について	
盛岡市史編さんの概要	

表紙写真 中の橋・岩手銀行本店（現：岩手銀行赤レンガ館） 昭和30年代

中の橋は官庁街と肴町などの商業地域をつなぎ、多くの車や人が行きかう場所である。橋のふもとに建つ岩手銀行本店は、盛岡を象徴する建物の1つであり、現在も役割を変えて賑わいをもたらしている。

資料編には、盛岡藩城下町の歴史・伝統と自然が融合し、歩いて楽しめるまちという盛岡らしさが形成された背景を知ることができる資料を掲載した。

市の総人口の長期的推移をみると、戦後復興期後から1980年代のバブル経済期にかけての35年間に、市の人口は1.6倍に増加した。その後、1992年に市の南部に位置する都南村と、さらに2006年には市の北部に位置する玉山村と合併したことで市域が拡大し人口が増加したものの、その後は横ばいが続いている。また、1985年から2010年までの25年間に県人口は7.2%減少している半面、市人口は合併を経て26.7%増加していることから、市への人口集中が進んでいることがわかる。一方、市の総人口が横ばいとはいえ、空き家は年々増加傾向にあり、少子高齢化の影響がうかがえる。

市の総人口推移の背景には、戦後復興期後の高度経済成長からバブル経済とその破綻、2000年代の低成長経済とリーマン・ショックによる長期不況という市を取りまく世界的、全国的な社会状況があった【資料- 1～5、10～13】。

既刊の『盛岡市史第9分冊昭和期上』によると、第二次世界大戦後、日本は連合国軍の占領下に置かれ、市には米軍が進駐し民主的改革を実施した。1946年の農地改革によって、市域では1950年には全農家戸数2,592戸の57%を占める1,475戸の自作農が誕生した。また、食糧不足解消のために観武ヶ原^{みたけがはら}などが開墾され、耕地面積も増加した。商工業においても1947年に2,300戸余りであった商業者数は1950年には6,300戸余りへと増え、1947年に2億7,800万円余りであった工業生産額は1951年には21億4,900万円に拡大し、戦後復興が進んだ。

その後、高度経済成長が始まる1955年に第1次産業20.9%、第2次産業16.1%、第3次産業63.0%であった産業別就業者数割合は、1975年には第1次産業5.6%、第2次産業18.8%、第3次産業75.2%と、第1次産業が大幅に減り、第3次産業が増加した。その後も

この傾向は加速し、低成長・長期不況下の2015年には第1次産業3.3%、第2次産業13.9%、第3次産業80.1%と、市では農業がさらに縮小し、工業が一定の割合を維持するなかでサービス業が産業の大きな割合を占めるようになった【資料-6】。

サービス業が発展していった背景には、国や市による開発・振興計画があった。1962年の全国総合開発計画、1972年の日本列島改造論によって高速道路・新幹線などの高速交通網が整備されたことにより、市は全国的な交通・流通網に組み込まれていった。

1956年の市勢振興計画以来、市の総合計画の基調は、市内はもちろん、首都圏や県内各地を結ぶ交通網・流通網の整備であった。これまで数度にわたり策定された総合計画の成果は盛岡民衆駅、盛岡バスセンター、田沢湖線、国道4号盛岡バイパス、東北新幹線、東北縦貫自動車道などの開通・開業となって実現した。また、近郊農村との合併による市域拡大によって郊外の宅地化が進み、大規模商業施設が相次いで建設されたことにより、バス路線などの交通網が整備された【資料-7～9、16、17】。

一方、1970年の第25回国民体育大会や1993年のアルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会の開催は市内の道路網整備に貢献するとともに、県外観光客誘致の契機になり、1980年代の全国的なりゾート開発は、市の観光業をさらに拡大する原動力になった【資料-14】。

1960年代からすでに活発であった市民活動は、第25回国民体育大会を契機に盛り上がり、さまざまな分野で市政と連携しながら、まちづくりや社会的課題の解決に取り組み、市政と市民生活を支えてきた【資料-15】。

さて、2011年の東日本大震災は市民生活に影響を与え、災害対策やその後の復興において市が果たす役割の重要性があらためて明確となった。自然災害の激甚化に備えた、高度な防災機能を有する都市環境のさらなる整備が求められている【資料-18～21】。

資料－1 盛岡市総人口の推移

年 西暦	盛岡市計（都南村・玉山村を含む）				岩手県全体
		盛岡市	都南村	玉山村	
1955	172,196	142,875	14,379	14,942	1,427,097
1956	174,806	144,802	14,511	15,493	1,458,065
1957	179,116	148,834	14,515	15,767	1,468,294
1958	180,662	150,617	14,247	15,798	1,454,525
1959	185,237	154,877	14,210	16,150	1,466,211
1960	188,360	157,441	14,397	16,522	1,448,517
1961	191,495	160,661	14,501	16,333	1,449,324
1962	195,021	164,890	13,783	16,348	1,448,580
1963	201,084	169,859	14,884	16,341	1,445,526
1964	204,866	173,615	15,010	16,241	1,439,198
1965	207,016	176,967	14,934	15,115	1,411,118
1966	212,447	182,656	14,955	14,836	1,396,021
1967	212,447	182,656	14,955	14,836	1,391,672
1968	216,327	186,307	15,363	14,657	1,385,248
1969	219,719	189,642	15,741	14,336	1,371,079
1970	226,868	196,036	16,654	14,178	1,371,383
1971	230,527	199,460	17,172	13,895	1,362,148
1972	235,209	203,660	17,724	13,825	1,359,717
1973	239,502	207,116	18,761	13,625	1,359,279
1974	244,011	210,590	19,739	13,682	1,362,716
1975	251,280	216,223	21,482	13,575	1,385,563
1976	256,577	220,063	22,922	13,592	1,394,144
1977	260,847	222,969	24,229	13,649	1,398,858
1978	264,760	225,240	25,837	13,683	1,405,854
1979	268,439	227,026	27,661	13,752	1,411,799
1980	272,814	229,114	29,626	14,074	1,421,927
1981	276,048	230,778	31,141	14,129	1,424,616
1982	279,018	232,117	32,739	14,162	1,425,967
1983	282,232	233,515	34,441	14,276	1,427,061
1984	284,305	234,246	35,734	14,325	1,427,218
1985	287,312	235,469	37,307	14,536	1,433,611
1986	287,429	234,688	38,230	14,511	1,429,808
1987	286,069	232,304	39,312	14,453	1,423,699
1988	286,324	231,373	40,586	14,365	1,419,849
1989	287,342	230,967	42,055	14,320	1,415,554
1990	292,632	235,434	43,063	14,135	1,416,928
1991	293,947	235,895	44,008	14,044	1,415,596
1992	295,961	281,870	(合併)	14,091	1,415,153
1993	297,396	283,398		13,998	1,415,697
1994	298,855	284,906		13,949	1,416,736
1995	300,723	286,478		14,245	1,419,505
1996	301,584	287,318		14,266	1,419,612
1997	301,549	287,353		14,196	1,419,161
1998	301,980	287,837		14,143	1,418,207
1999	301,688	287,608		14,080	1,415,676
2000	302,857	288,843		14,014	1,416,180
2001	302,609	288,654		13,955	1,413,099
2002	302,400	288,513		13,887	1,408,079
2003	302,004	288,143		13,861	1,401,763
2004	301,674	287,972		13,702	1,394,810
2005	300,746	287,192		13,554	1,385,041
2006	300,164	300,164		(合併)	1,374,699
2007	299,724	299,724			1,363,702
2008	298,697	298,697			1,352,388
2009	298,293	298,293			1,340,852
2010	298,348	298,348			1,330,147
2011	299,568	299,568			1,312,756
2012	300,102	300,102			1,303,351
2013	300,592	300,592			1,294,453
2014	300,116	300,116			1,284,384
2015	297,631	297,631			1,279,594
2016	296,701	296,701			1,268,083
2017	295,630	295,630			1,254,807
2018	294,047	294,047			1,240,522
2019	292,554	292,554			1,226,430
2020	289,731	289,731			1,210,534
2021	288,222	288,222			1,196,277
2022	286,219	286,219			1,180,512

(注) 1966年市村総人口のみ、岩手県統計年鑑

(『「岩手の統計情報」岩手の長期時系列データ（人口）』『岩手県統計年鑑』から作成)



第1章

市政の発展と 議会のあゆみ

第1節 市政と村政の展開

第2節 市と村の財政

第3節 議会運営

第4節 合併

資料1-12 市役所新庁舎の落成 広報もりおか/1962（昭和37）年10月15日



資料1-13 盛岡市総合計画の基本構想 広報もりおか/1966（昭和41）年5月1日



<年表凡例>

- 1 条例、計画名等において、盛岡市は「市」、岩手県は「県」と表記した。
- 2 都南村、玉山村のできごとには、文頭にそれぞれ(都南)(玉山)と表記し、文中の「都南」、「玉山」は省略した。
- 3 法人等の種類(株式会社、一般財団法人等)は省略した。その他にも適宜略称を用いた(例:高等学校→高校)。

盛岡市のできごと(都南村・玉山村含む)	日本・世界のできごと
1945(昭和20)年	
	8月15日　ポツダム宣言を受諾し終戦
1946(昭和21)年	
10月――　盛岡市体育会(現:盛岡市スポーツ協会)発足 ―――　盛岡市青年団体連合会(後の盛岡市青年団体協議会)発足	11月　3日　日本国憲法公布
1947(昭和22)年	
4月　5日　市長選挙執行(戦後初) 4月　8日　第12代市長に小泉多三郎就任(～1952年) 4月30日　第17回市議会議員選挙執行(女性市議誕生) 4月30日　消防組織法により「盛岡市消防団(14分団)」発足 9月――　カスリン台風により、犠牲者4人、床上浸水2,043戸の被害	5月　3日　日本国憲法施行
1948(昭和23)年	
4月19日「盛岡戦災復興土地区画整理事業」事業計画認可 5月　1日　内丸に県立美術工芸学校創設 9月――　アイオン台風により、床上浸水155戸の被害 ―――　盛岡市PTA連合会発足 ―――　チャグチャグ馬コ保存会発足	
1949(昭和24)年	
1月15日　成人式(成年祭)初開催 4月　1日　市立女子商業高校と市立女子高校を統合し、盛岡市立高校と改称 5月　3日　第1回市民体育祭開催 7月　9日　ボーイスカウト岩手連盟発足 12月22日　旧盛岡文士劇初開催	
1950(昭和25)年	
4月14日「上水道第1次拡張事業」開始 5月――　(都南)飯岡村立公民館(後の第二公民館、飯岡地区公民館)開館 9月　1日「盛岡市立図書館設置条例」制定(1964一部、1996全部改正) 12月17日『盛岡市史』刊行開始(1981年まで21分冊刊行)	6月25日　朝鮮戦争勃発
1951(昭和26)年	
3月――　中津川揚水場完成 4月23日　市長選挙、市議会議員選挙執行 5月――　盛岡市地域婦人団体連絡協議会発足 7月26日　県立図書館内に市立図書館児童室開館 10月26日　市社会福祉協議会設立	9月　8日　サンフランシスコ平和条約調印
1952(昭和27)年	
2月23日　盛岡ユネスコ協会発足 7月20日　市長選挙執行 7月20日　第13代市長に二見直三就任(～1953年) 10月　1日　市水道事業所発足	

盛岡市のできごと(都南村・玉山村含む)	日本・世界のできごと
1953(昭和28)年	
2月　2日　市議会で下水道築造を可決 3月30日「市公民館設置条例」制定 4月14日「上水道第2次拡張事業」開始 12月25日　岩手放送(現:IBC岩手放送)開局	
1954(昭和29)年	
2月　1日「国民健康保険事業」開始 2月10日　市長選挙執行 2月12日　第14代市長に山本弥之助就任(～1965年) 3月　1日　岩手公園下に市立図書館移転 4月　1日　(玉山)玉山村藪川村組合村と渋民村が合併、新「玉山村」誕生 4月28日　(玉山)村長選挙執行 4月30日　(玉山)初代村長に米島悦郎就任(～1961年) 11月21日　自然災害により不通であった山田線が全線開通 ―――　盛岡市美化市民運動協議会の発足	11月――　神武景気(～1957年6月)
1955(昭和30)年	
1月30日　(玉山)村婦人団体連絡協議会発足 2月　1日　築川村、滝沢村種畜牧場地区および玉山村黒石野地区編入 3月13日　(玉山)姫神青年団体協議会(後の村青年団体協議会)発足 3月19日「下水道条例」制定、下水道使用料徴収開始決定 3月19日「市工場設置奨励条例」制定 3月31日　青山揚水場完成、送水開始 4月　1日　太田村編入 4月　1日　(都南)見前、飯岡、乙部の3村が合併し都南村誕生。役場庁舎を盛岡市菜園23番地におく 4月　2日　(都南)村青年団体協議会発足 4月30日　市議会議員選挙執行 5月　7日　(都南)初の村長選挙執行 5月　7日　(都南)初代村長に吉田敬一就任(～1957年) 6月　1日　(玉山)巻堀村編入 6月28日　(都南)初の村議会議員選挙執行 7月　1日　県から移管の産業文化館を公民館に(後の中央公民館) 7月　1日　市公民館太田分館開館 7月　7日　(都南)役場庁舎を盛岡市新穀町(現:南大通)に移転 7月11日　「青山町の生活実態調査」実施(～22日)。引揚者の生活実態が明らかになる(1948～50年までの引揚者:1,950世帯、5,593人) 7月29日　(玉山)新玉山村体育協会発足 8月――　(都南)都南村体育協会設立 9月11日　(都南)第1回村民運動会を見前中学校で開催 10月　1日　雫石町繫地区編入 10月　1日　繫簡易水道を市に移管 10月　4日「上水道第3次拡張事業」開始 10月10日　(都南)第一公民館(後の見前地区公民館)、第三公民館(後の乙部地区公民館)開館 11月　3日　第1回市勢振興功労者表彰 11月10日　(都南)第1回村文化祭を飯岡小学校で開催	8月　6日　第1回原水爆禁止世界大会



盛岡市史現代

資料編 上 卷

盛岡市史



資料編
下 卷

現代



第4章

健康で 安心して暮らせる まちづくり

はじめに

第1節 保健 ～子どもから高齢者までの健康づくり～

第2節 医療 ～安心できる医療体制の整備～

第3節 福祉 ～誰もが健やかに、市民福祉の充実～

資料4-2 地域保健法に依る市町村実施体制の強化拡充 厚生白書（平成7年版）

厚生省では、終戦直後に構築された地域保健対策の枠組みを抜本的に見直し、国、都道府県、市町村がそれぞれにふさわしい役割を分担し、地域保健対策の総合的な推進・強化を図ることを目的とする「地域保健対策強化のための関係法律の整備に関する法律案」を国会に提出し、同法案は平成6年6月成立した。同法では、

- 1)「保健所法」を「地域保健法」に改め、基本指針を定めることとするなど、地域保健対策の推進体制の強化を図るための基本的な枠組みや方向を定める
- 2)保健所について、地域保健対策に関する広域的・専門的・技術的拠点としての役割を明確に位置づけるとともに、都道府県の保健所の所管区域については二次医療圏や老人保健福祉圏を参しゃくすべきこととするなど、保健所の機能強化を図る

3)3歳児健診などの母子保健事業や一般的な栄養指導などに関する事務の市町村への委譲などにより、住民に身近で利用頻度の高い保健サービスを市町村において一元的に提供されるようにするとともに、市町村保健センターの法定化、人材確保支援計画の策定および計画に基づく事業の実施などにより、市町村における実施体制の整備を図る

4)診療所、医薬品の一般販売業などについての許可や届出の受理などの事務について、保健所設置市に委譲することなどを内容としている。

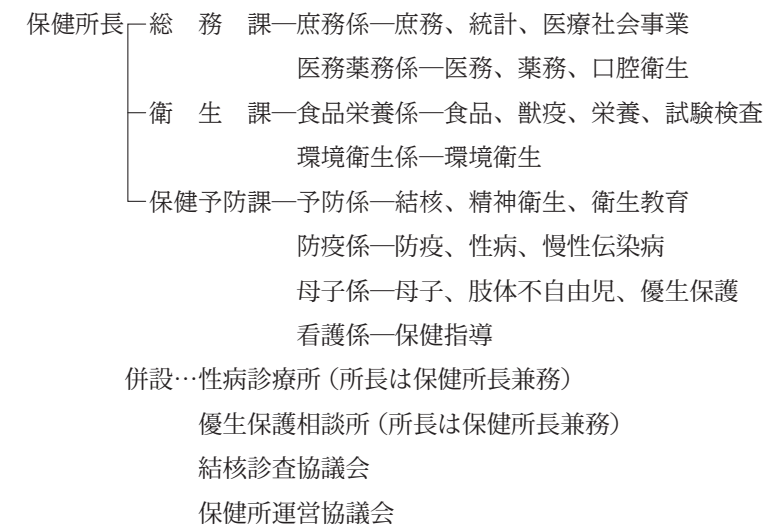
なお、これらのうち、保健所の機能強化、権限委譲などについては、平成9年度より施行される。

（筆者注）地域保健法の制定により、市町村が保健サービスを一元的に提供することとなった。

I 保健行政の変遷と体制整備

資料4-3 岩手県盛岡保健所の組織と業務（昭和30年）

○保健所の組織



○職員構成

3課、8係 56人の職員数

（単位：人）

医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	栄養士	保健婦	助産婦	X線技師	歯科衛生士	検査技師	事務等
6	1	1	7	2	12	1	2	2	1	21

（『保健所のあゆみ（保健所法施行30周年記念誌）から作成）



第5章

地域と歩む教育

第1節 戦後教育の展開

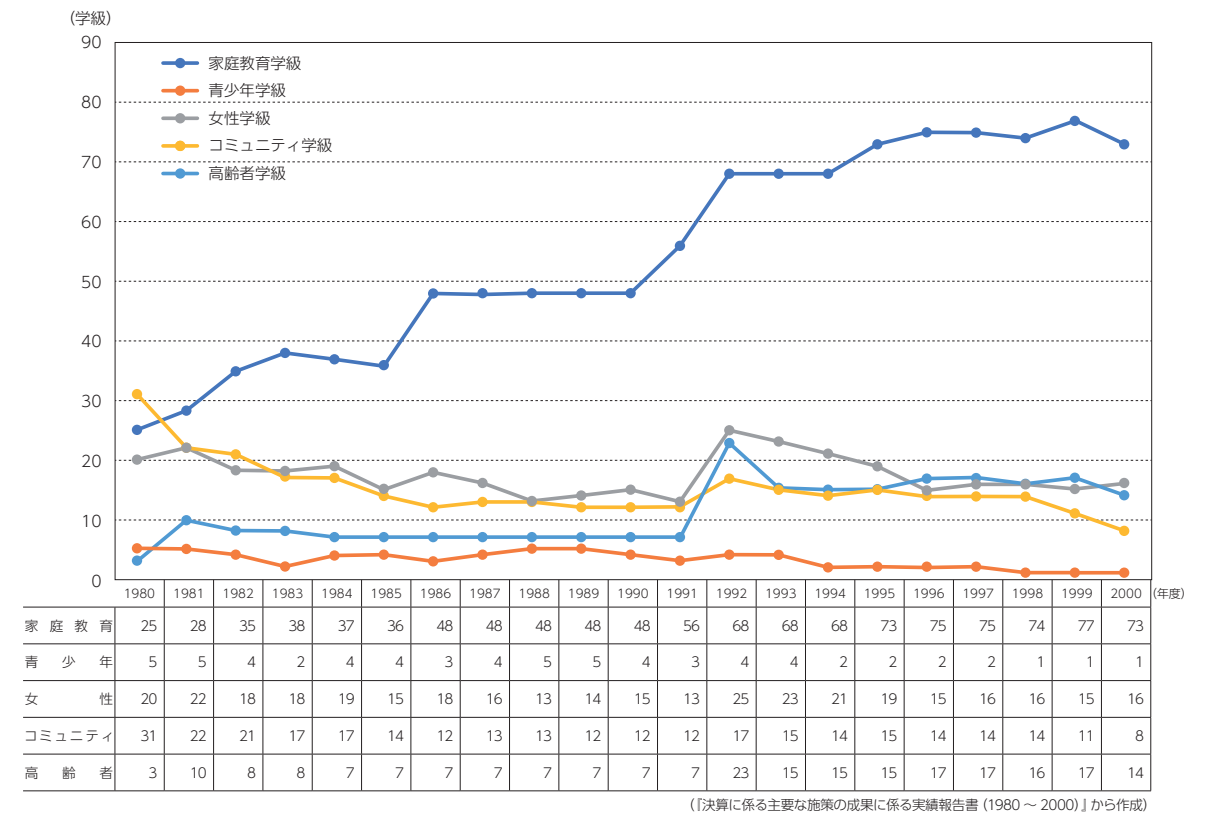
第2節 高度経済成長と教育

第3節 学校教育の現在

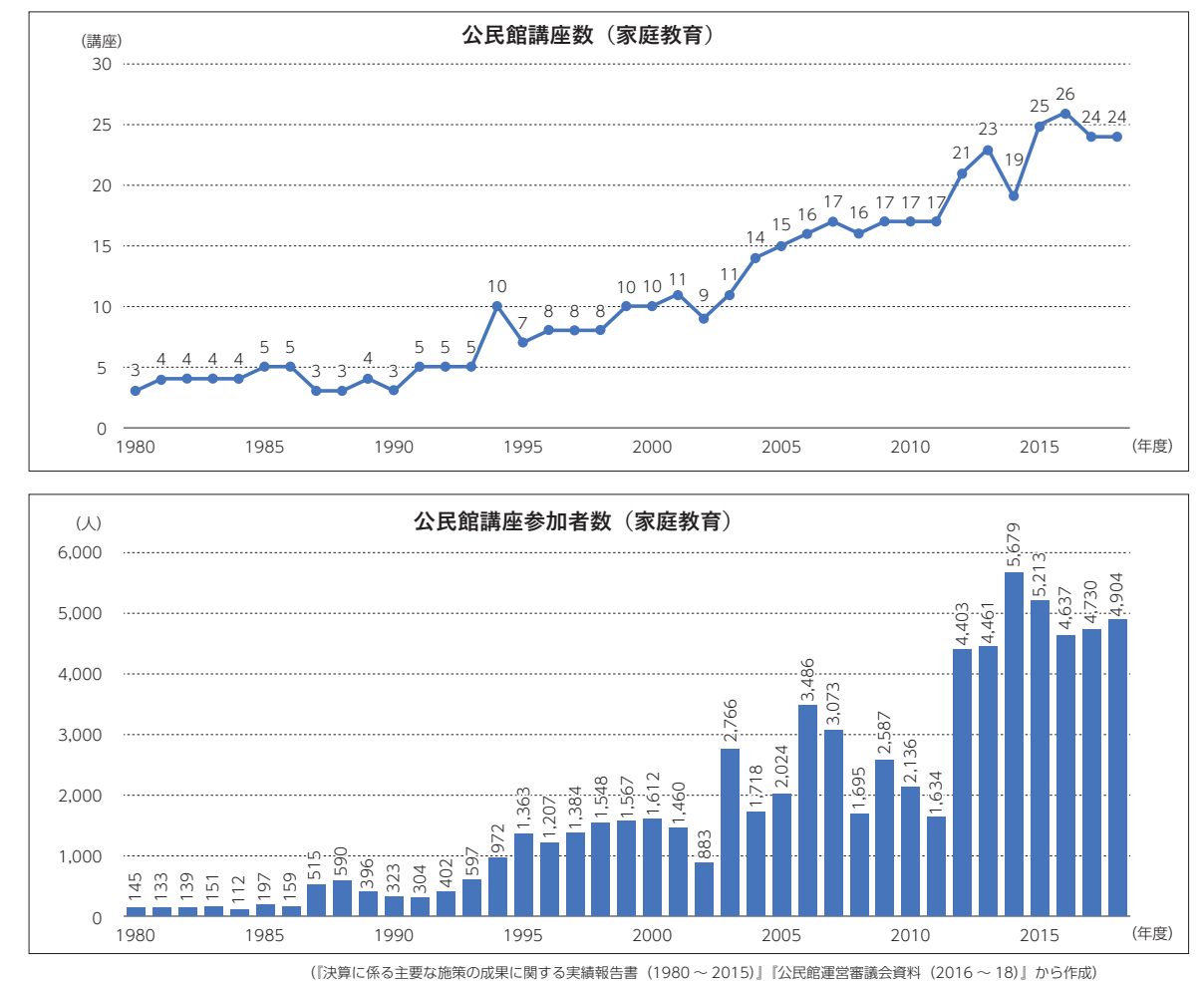
第4節 社会教育の推進

Ⅱ ライフステージに対応した社会教育

資料5-88 社会教育学級数の推移



資料5-89 公民館の家庭教育に関する講座および参加者数の推移





盛岡市史現代

資料編 下 卷